

60年の臨床から導き出した

阿部晴彦の総義歯臨床

阿部晴彦

阿部薫子 著

ABE
Haruhiko

医歯薬出版株式会社



26a



26b

図 6-26 ティッシュコンディショナーを混和して数分待ちリボン状に細長くしたものを舌側辺縁に巻き付け、繋ぎ目をモノマーで湿らせたうえで、口角に触れて内面に入らないように注意して口腔内に装着する



図 6-27 舌側の辺縁形成のための筋活動は、患者の舌と術者の指の押しくらべが効果的で、術者は指で三角形を作りその間から舌を前方に突出するように命じる



28a



28b

図 6-28 筋活動が奏功して舌側の辺縁形成が完了する



図 6-29, 30 下顎唇側・頬側の辺縁形成に移行するため、該当部にリボン状のティッシュコンディショナーを巻き付け、口腔内に装着し辺縁部を術者の指で圧接後、筋活動を行い辺縁形成を行う

以上で同等沈下を期待し採得された下顎床内面と舌側・唇頬側把持面の印象が完了した(図 6-31)。

ティッシュコンディショナーによる印象面は、ティッシュコンディショナーが徐硬化性であるため、床下面粘膜に咬合圧などの機能圧が加わった状態の粘膜表面形態が再現でき、目的とする同等沈下下印象面を期待できる(図 6-32)。その上からシリコン印象材を追加している

術者もいるが、全く意味のないことである。

なお、全ての印象面は脆弱な粘膜と接触するため、滑沢な面にしておきたい。そのため、『ニュートップコート』(亀水歯科工業)を全面に塗布し、揮発するまで数分放置する。急ぐ場合は塗布面にヘアドライヤーを使うと早い(図 6-33, 34)。



図 6-31 下顎唇側・頬側の辺縁形成が行われ、同等沈下を期待し採得された床内面と舌側・唇頬側辺縁把持面の印象



図 6-32 上下顎の最終印象が完了し状態。ティッシュコンディショナーによる印象面は、ティッシュコンディショナーが徐硬化性であるため、床下面粘膜に咬合圧などの機能圧が加わった状態の粘膜表面形態が再現でき、目的とする同等沈下した印象面を期待できる



図 6-33, 34 全ての印象面は脆弱な粘膜と接触するため、ツルツルな滑沢な面にしておきたい。そのため、『ニュートップコート』(亀水歯科工業)を全面に塗布し、揮発するまで数分放置する。急ぐ場合は塗布面にヘアドライヤーを使うと早い



図 9-38, 39 義歯の着脱が可能な状態でジグにマウントしたいため、分離材としてティッシュコンディショナーの被膜を義歯内面に塗布した。リプレースメントジグにマウントされ咬合面コアが記録された治療用義歯



図 9-40, 41 厚さ約 2mm のスペースが必要なので直径 2mm の 8 番のラウンドバーをデプスゲージとして義歯内面に削除の目安を設け、スペースを設置する

動的加圧印象

1. 印象材の装填

- ① リプレースメントジグ上スペーサーが設置された状態の治療用義歯 (図 9-42).
- ② 模型面にアルジネート分離材を塗布する (図 9-43).
- ③ 印象材として用いられるティッシュコンディショナーを混和し、ニュートンフローがなくなる状態まで待ち、スパチュラですくえる状態になったらワックスデンチャー内面に装填する (図 9-44).

ティッシュコンディショナーが装填された義歯を咬合



図 9-42 リプレースメントジグ上スペーサーが設置された状態の治療用義歯

面コアをガイドにジグ上に復位させる (図 9-45).

2. 同等沈下を意図とした義歯内面の印象

同等沈下を意図とすることは、リリーフを必要としない義歯を目指すことであり、ここで術式工程を述べる。

- ① 内面に装填したティッシュコンディショナーの膠化が始まったなら、表面活性剤の入った微温湯に浸した後、ジグ上の模型から義歯を取り出す。辺縁から外面に溢れ出ているものは辺縁に沿って歯肉鉋でトリミングする。この義歯内面は、最小圧印象された研究模型から作製された静態の粘膜面が反転・表現されていることになる。



図 9-43 模型面にアルジネート分離材を塗布する



44a



44b

図 9-44 印象材として用いられるティッシュコンディショナーを混和しニュートンフローがなくなる状態まで待ち、スパチュラですくえる状態になったら義歯内面に装填する

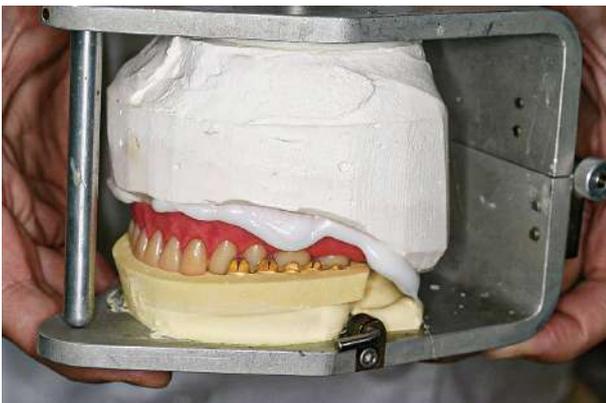


図 9-45 ティッシュコンディショナーが装填された義歯を咬合面コアをガイドにジグ上に復位させる



18a



18b



19a



19b

図 11-1-18, 19 人工歯排列が完了した上下顎側方観および咬合面観

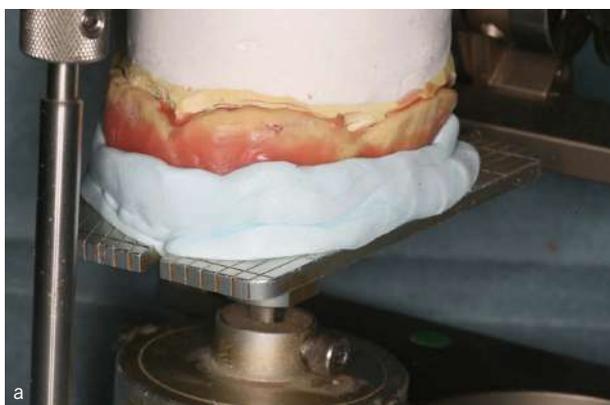
数日間口腔内で使用できるワックスデンチャー

冒頭で述べたように、機能圧として咬合・咀嚼圧をかけて印象採得を行うのだが、この際できれば治療用義歯を作製し数日間使用させて印象を採得することがもっとも望ましい。しかし、治療用義歯を作製するとなると、

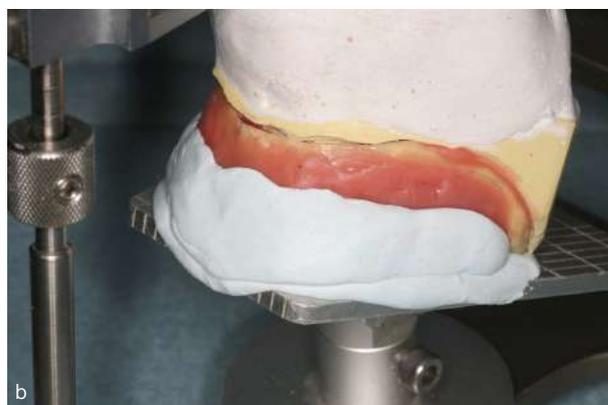
患者の費用負担は免れない。

そこで、治療用義歯を作製せずに数日間使用できるワックスデンチャーを開発したので紹介したい。

- ① 人工歯排列・試適が完了した人工歯列の咬合面コアをシリコンパテで採得する (図 11-1-20)。



a



b

図 11-1-20 ワックスで固着した人工歯の咬合面コアをシリコンパテで採得する